

賀寿期五歳層

米寿期（85歳～89歳） 人名録 昭和4年～大正14年

わが国の平均寿命が、女性86.4歳、男性79.9歳であることからすると、88歳の「米寿」あたりからがやっと長命を祝える年齢に達したということになります。ことしは昭和89年ですから昭和元年（1926年）生まれの人が「米寿」ということになります。落語家の桂米丸さんも桂米朝さんも大正14（1925）年の生まれ。数えの88歳で「米寿」の祝いをすませて米寿期お現役でいます。

ここでは満年齢での5歳層「米寿期」ですから、85歳・昭和4（1929）年～89歳・大正14（1925）年生まれの方々がお仲間ということになります。

昭和は大正15年12月25日の改元でしたから昭和元年は実感の乏しい年号です。昭和人名録をみていただくとおわかりのように、1926年生まれの方には、森英恵、石井ふく子、河野多恵子、中根千枝、三浦朱門、安野光雅氏。学者も多く多湖輝、小柴昌俊、大塚初重といった各氏が各界で活躍しています。この方々を先頭にして、昭和生まれの人びとのもつ巨大な知性の幅と厚みと密度に、改めて敬意を表したいと思います。

賀寿期五歳層のステージ

2014年では、

百寿期（100歳以上）	大正3年以前
白寿期（95歳～99歳）	大正8年～大正4年
卒寿期（90歳～94歳）	大正13年～大正9年
米寿期（85歳～89歳）	昭和4年～大正14年
傘寿期（80歳～84歳）	昭和9年～昭和5年
喜寿期（75歳～79歳）	昭和14年～昭和10年
古希期（70歳～74歳）	昭和19年～昭和15年
還暦期（60歳～69歳）	昭和29年～昭和20年

<注>平成26年は大正103年、昭和89年に当たります。

「団塊（昭和22年～24年）」の人びとがすべて65歳に。

三世代年表 生年別の人口（男・女）、流行語、流行歌

◇「長命期（米寿期）」（八五～八九歳） 人口は二〇一〇年一〇月一日。「国勢調査」総務省統計局

生年	干支	年齢	人口（男・女）万人	流行語・流行歌
一九二九	昭和	四 己巳 八五	37.2 56.0	大恐慌。大学は出たけれど。「東京行進曲」
一九二八	昭和	三 戊辰 八六	33.9 53.0	狭いながらも楽しい我が家。「波浮の港」「君恋し」

一九二七 昭和 二 丁卯 八七 30・4 49・8 何が彼女をさうさせたか。「ちゃつきり節」
一九二六 昭和 一 丙寅 八八 米寿 27・1 47・3 文化住宅。モガ・モボ。「ヨサホイ節」「この道」
一九二五 大正一四 乙丑 八九 22・4 42・5 軍教。ラジオ放送。円タク。「あの町この町」

大正・昭和シニア人名録

物故者も最近の人やまだ心の中に生きつづけている（話題になる）人は残してあります。

ご自分と「賀寿期」をともに生きる「知名人」の方の小録としてご参考までに。

ご紹介できるのは少数ですが、これだけの優れた人びとが、長年かけてつちかった知識・技能・経験そして築き上げた人格を保って活躍している姿がいつも見えているような社会が、「本格的な日本高齢社会」です。

米寿期（85歳～89歳）人名録 昭和4年～大正14年

1925年（大正14）年

鈴木文弥（1・4 アナウンサー） 清水司（1・22 工学・早大総長） 木下東一郎（1・23 理論物理） 大友工（2・19 プロ野球） 豊田章一郎（2・27 経営者） 江崎玲於奈（3・12 物理学） 原寿雄（3・15 ジャーナリスト） 小尾信弥（3・17 天文学） 梅原猛（3・20 哲学者） 永井路子（3・31 作家） 桂米丸（4・6 落語家） 富永一朗（4・25 漫画家） 木村明生（4・27 ロシア研究） 橋田壽賀子（5・10 作家） 大滝秀治（6・6 俳優） 大田昌秀（6・12 政治家） 杉本苑子（6・26 作家） 大関早苗（6・28 美容家） 藤沢嵐子（7・21 歌手） 色川大吉（7・23 歴史学） 篠原一（8・21 政治学） 丸谷才一（8・27 作家） 杉下茂（9・17 プロ野球） 大城立裕（9・19 作家） 岡田卓也（9・19 経営者） 星野哲郎（9・30 作詞家） 森本哲郎（10・13 評論家） 野中広務（10・20 政治家） 桂米朝（11・6 落語家） 鎮目恭夫（11・27 物理学）

1926年（昭和元）年

早乙女貢（1・1 歴史小説） 森英恵（1・8 ファッション） いいだもも（1・10 評論家） 森亘（1・10 病理学） 三浦朱門（1・12 作家） 榊莫山（2・1 書家） 津島恵子（2・7 女優） 松谷みよ子（2・15 児童文学） 多湖輝（2・25 心理学） 辻久子（3・15 バイオリン） 安野光雅（3・20 画家） 加藤寛（4・3 経済学） 小川宏（4・17 アナウンサー） 河野多恵子（4・30 作家） 渡辺恒雄（新聞記者 5・30） 奥野健男（7・25 文芸評論） 今村昌平（9・15 映画監督） 小柴昌俊（9・19 物理学者） 祖父江孝男（11・5 文化人類学） 大塚初重（11・22 考古学） 鈴木孝夫（11・9 言語社会学） 中根千枝（11・30 社会人類学）

1927年（昭和2）年

一番ヶ瀬康子（1・5 社会福祉） 勅使河原宏（1・28 華道・映画監督） 熊倉一雄（1・30 演出家） 植木等（2・25 俳優） 高松和男（3・12 経営分析） 宮城まり子（3・21 ねむの木学園） 堤清二（3・30 企業経営・作家） 無着成恭（3・31 教育評論） 矢代静一（4・10 劇作家） 北杜夫（5・1 作家） ジョージ川口（6・15 音楽家） 芦野宏（6・18 シャンソン） 小原秀雄（7・2 動物生態学） 観世栄夫（8・3 能楽師） 小西正泰（8・9 昆虫学） 粟津則雄（8・15 文芸評論） 祖父江昭二（9・3 近代文学） 伊東光晴（9・11 経済学） 坂本義和（9・16 国際政治学） 緒方貞子（9・16 国際関係） 加山又造（9・24 画家） 舛田利雄（10・5 映画監督） 馬場のぼる（10・18 漫画家） 古田足日（11・29 児童文学）

1928年（昭和3）年

大堀敦子（1・1 ピアニスト） 三浦洗一（1・1 歌手） 池田大作（1・2 宗教家） 岡井隆（1・5 歌人） 網野善彦（1・22 常民文化） 田久保英夫（1・25 作家） 暉峻淑子（2・5 生活経済） 増田義郎（2・17 文化人類学） 上田哲（2・26 ジャーナリスト） 長沢和俊（2・28 東西交渉史） 兼高かおる（2・28 旅行作家） 小島功（3・3 漫画家） 西原春夫（3・13 法学者） 菊竹清訓（4・1 建築家） 古在由秀（4・1 天文学） 久里洋二（4・9 アニメーション） 諸井虔（4・23 企業経営） 津村節子（6・5 作家） 蛸山道雄（8・11 国際政治） 唯是康彦（8・13 食糧経済） 三浦文夫（社会保障・社会福祉） 五十嵐喜芳（9・8 声楽家） 古橋広之進（9・16 JOC 会長） 富森観児（9・20 ジャーナリスト） 鈴木義司（9・26 漫画家） 羽仁進（10・10 評論家） 熊沢喜久雄（11・14 植物栄養学） 宮尾盤（11・27 地方財政） 土井たか子（11・30 政治家） 土本典昭（12・11 記録映画） 佐藤慶（12・21 俳優） 多木浩二（12・27 美術評論）

1929年（昭和4）年

加藤郁乎（1・3 俳人） 増田れい子（1・5 ジャーナリスト） 三遊亭圓歌（1・10 落語家） 神山繁（1・16 俳優） 三木多聞（2・6 美術評論） 田沼武能（2・18 写真家） 西川杏太郎（3・9 日本美術史） 大塚正徳（3・10 薬理学） 三遊亭金馬（3・19 落語家） 犬塚弘（3・23 俳優） 津本陽（3・23 小説家） 三枝和子（3・31 小説家） 小沢昭一（4・6 俳優） 永井一正（4・20 デザイナー） 加賀乙彦（4・22 小説家） 鈴木道彦（4・26 フランス文学） 平岡篤頼（5・2 フランス文学） 仲谷昇（5・4 俳優） 板東三津五郎（5・14 歌舞伎俳優） 奥平康弘（5・19 憲法学） 高橋治（5・23 小説家） 長野敬（6・6 生物学） 島田陽子（6・7 詩人） 都筑道夫（7・6 推理作家） 栗田勇（7・18 フランス文学） 笹原正三（7・28 レスリング協会） 磯村尚徳（8・9 ジャーナリスト） 早坂暁（8・11 小説家） 松下圭一（8・19 政治学） サ

トウサンペイ (9・11 漫画家) 新井直之 (9・21 ジャーナリズム論) 中江利忠 (10・4 ジャーナリスト) 鈴木尚之 (10・5 脚本家) 志賀信夫 (10・23 放送評論) 高松英郎 (10・24 俳優) 鈴木章夫 (11・7 胸部外科学) 納谷悟朗 (11・17 演出家) 奈良岡朋子 (12・1 俳優) 塚田理 (12・31 神学)